小児科・新生児科

【1】研修プログラムの目標と特徴

小児科は、年齢ごとに異なった特性をもつ小児へのヘルス・ケア全般を対象とする。研修では、小児診療を適切に実践するうえで必要な基本的知識・技能・態度の習得を目標とする。

当院の小児科での 2 年次の 1 か月の研修では、小児の一般診療以外に、救急外来での小児対応も行う。また、新生児室での、新生児の診療にも参加する。

1. 外来・救急診療

GIO：頻度が高い疾患の鑑別診断と対処法、および保護者への対応と支援の実際を学ぶ。

SBOs：

① 頻度の高い疾患の鑑別診断と対処ができる。
② 患児の保護者への対応ができる。
③ 小児の成長・発達と、それに応じた特性を理解できる。
④ 年齢ごとの、コモンディジーズと重症疾患を鑑別する。
⑤ 医療面接、診察、診断、対処の方法を学ぶ。

2. 病棟研修

GIO：入院適応を知り、患児と保護者の心理状態を理解する。

SBOs：

① 新生児の一般的管理ができる。
② 病児の身体診察ができる。
③ 病児の治療計画を立てる。
④ 基本的な手技を行う。
⑤ 基本的な臨床検査の結果を解釈する。
⑥ 基本的な薬剤の使用法を理解し、処方ができる。
⑦ 輸液の適応、輸液の種類と必要量を決める。

3. 一般症候

(1) 体重増加不良、哺乳力不良
(2) 発達の遅れ
(3) 発熱
(4) 脱水、浮腫
(5) 発疹、湿疹
(6) 黄疸
(7) チアノーゼ
(8) 貧血
(9) 紫斑、出血傾向
(10) 痙攣、意識障害
(11) 頭痛
(12) 耳痛
(13) 咽頭痛、口腔内の痛み
(14) 咳・喘鳴、呼吸困難
(15) 頸部腫瘤、リンパ節腫脹
(16) 鼻出血
(17) 嘔吐、腹痛
(18) 下痢、便秘、血便

(19) 四肢の疼痛
(20) 夜尿、頻尿
(21) 肥満、やせ

4. 頻度の高い、あるいは重要な疾患

(A) 疾患：経験すべき疾患
(B) 疾患：経験することが望ましい疾患

(1) 新生児疾患
- 新生児仮死(A)
- 新生児黄疸(A)
- 低出生体重児(A)
- 呼吸窮迫症候群(B)

(2) 乳児疾患
- おむつかぶれ(A)
- 乳児湿疹(A)
- 乳児下痢症(A)

(3) 感染症
- 発疹性ウイルス性疾患（突発性発疹、麻疹、風疹、水痘、伝染性紅斑、手足口病のいずれかを経験する）(A)
- その他のウイルス性疾患（ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、インフルエンザのいずれかを経験する）(A)
- 急性扁桃炎、気管支炎、細気管支炎、肺炎(A)
- 伝染性膿痂疹（とびひ）(A)
- 細菌性胃腸炎(B)

(4) アレルギー性疾患
- 小児気管支喘息(A)
- アトピー性皮膚炎、蕁麻疹(A)
- 食物アレルギー(B)

(5) 神経疾患
- 熱性けいれん(A)
- てんかん(A)
- 細菌性髄膜炎、脳炎・脳症(B)

(6) 腎疾患
- 尿路感染症(A)
- 急性腎炎、慢性腎炎(B)
- ネフローゼ症候群(B)

(7) 心疾患
- 心不全(B)
- 心室中隔欠損症、Fallot 四徴症(B)

(8) リウマチ性疾患
- 川崎病(A)
- 若年性リウマチ、全身性エリセマトーデス(B)

(9) 血液・悪性腫瘍
- 貧血(A)
- 白血病、小児癌(B)
- 血小板減少症、紫斑病(B)

(10) 内分泌代謝疾患
- 低身長、肥満(A)
- 甲状腺機能低下症（クレチン病）(B)

- 糖尿病(B)

(11) 消化器疾患
- 腸重積、急性虫垂炎(B)
- 胆道閉鎖症、肝炎(B)

(12) 発達障害・心身医学
- 精神運動発達遅滞、言葉の遅れ(B)
- 注意欠陥・多動性障害(B)

5. 小児救急の基礎知識と手技

(A)　疾患：経験すべき疾患
(B)　疾患：経験することが望ましい疾患

(1) 酸素療法ができる(A)
(2) けいれんの鑑別ができ、けいれん状態への応急処置ができる(A)
(3) 喘息発作の重症度を判断でき、中等度以下の応急処置ができる(A)
(4) 脱水症の程度を判断でき、応急処置ができる(B)
(5) 事故（異物，溺水，熱傷，中毒，転落など）の応急処置ができる(A)
(6) 蘇生術が行える(B)
(7) 腸重積症を正しく診断して適切な対応がとれる(B)
(8) 虫垂炎の診断と外科へのコンサルテーションができる(B)

6. 成長・発達と小児保健に関する知識

(1) 母乳，調整乳，離乳食の知識と指導
(2) 乳幼児の体重・身長の増加と異常の発見
(3) 神経発達の評価と異常の検出
(4) 予防接種の種類と実施方法および副反応の知識と対応法の理解
(5) 育児にかかわる相談の受け手としての知識
(6) 体液生理の変化と電解質，酸塩基平衡に関する知識

【2】週間予定

	8:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14;00 15:00 16:00 17;00 18:00
月	外来診療・病棟回診
火	外来診療・病棟回診
水	外来診療・病棟回診
木	外来診療・病棟回診
金	外来診療・病棟回診
土	
日	

【3】教育評価(Educational Evaluation)

研修終了時に，指導医により EPOC を用いて目標の到達状況についての評価を行う。

【4】方略(Learning Strategies)

症例検討会やレクチャーなど以外は，一般外来，病棟，救急外来などで患者の診療（ベッドサイド研修）を行う。

【6】指導責任者および指導医・上級医

小児科

指導医	役職	卒業年	主な資格など	専門分野	臨床研修指導医
丸山　秀和 （まるやまひでかず）	小児科長	1997 年	日本小児科学会小児科認定医・専門医、医学博士	小児科一般	○
矢野　潤 （やの　じゅん）	小児科医長	2002 年	日本小児科学会小児科専門医	小児科一般	○
佐藤　紀夫 （さとう　のりお）	医師	2013 年			

新生児科

指導医	役職	卒業年	主な資格など	専門分野	臨床研修指導医
天沼　史孝 （あまぬまふみたか）	新生児科長兼災害医療科長	1997 年	日本小児科学会小児科認定医・専門医	小児科一般	○

【7】2016 年実績

入院患者延数	
小児科	5,017
新生児科	2,188
当年度入院	
小児科	903
新生児科	216

外来患者延数	
小児科	11,187
新生児科	1,445
新患数	
小児科	3,382
新生児科	52

【8】参考文献資料

- 平成 20 年度岩手医科大学附属病院卒後研修プログラム
- 3 か月の小児科　医学書院　2003.3

【9】改訂修正履歴

2004.4　作成　丸山秀和，加藤博孝
2007.6　改訂　丸山秀和，加藤博孝
2010.3　改訂　丸山秀和